

3. 「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の教職課程コアカリキュラムとモデルカリキュラム

(1) 「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の教職課程コアカリキュラム²

保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標： 幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1) 各領域のねらい及び内容

一般目標： 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

到達目標： 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解している。
2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
4) 各領域で幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法及び保育の構想

一般目標： 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標： 1) 幼児の認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
2) 各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

² “(資料 2-2) 各事項に係るコアカリキュラム (案)”. 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会 (第 4 回). 東京, 2017/3/27.

(2)「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」のモデルカリキュラム

① 保育内容「健康」の指導法（2単位）

全体目標： 領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1) 領域「健康」のねらい及び内容

- 一般目標： 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。
- 到達目標：
- 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 - 2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 領域「健康」の指導方法及び保育の構想

- 一般目標： 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
- 到達目標：
- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
 - 2) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 - 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
 - 5) 領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

- 〔留意事項〕
- 1) 具体的な指導場面における教師の関わり方に関しては、映像資料等を活用するなどし、心理学等の知見に基づき幼児の動機づけや意欲などを考慮した指導の在り方が理解できるようにする。

- [留意事項] 2) 心身の健康（基本的な生活習慣、病気の予防、安全についての構え等）、防災を含む安全、食育、また運動発達については、小学校との接続及び小学校以降における指導計画や指導を考慮して理解できるようにする。
- 3) 領域「健康」の背景となる学問的基盤及び幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる<授業モデル>

- 1) 食事や着脱、清潔などの生活習慣や災害時の安全に関する指導については、具体例を示す資料や視聴覚教材などの ICT を活用し、幼児の具体的な活動の仕方や行動について理解できるようにする。
(1) - 2)、(1) - 4)、(2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 5)
- 2) 様々な遊びの場を幼児の多様な動きの経験などの視点から捉えながら、幼児期の運動発達に沿った運動指導の留意点と教師の役割を具体的な場面にに基づき考える。
(1) - 2)、(1) - 3)、(1) - 4)、(2) - 3)、(2) - 5)
- 3) 日常生活における幼児の身体活動を理解したり、遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするために、これらを体験しながら理解する機会を設ける。
(1) - 2)、(1) - 3)、(2) - 1)、(2) - 3)、(2) - 5)
- 4) 幼児の健康に関わる現代的課題や保育実践について、映像資料や事例等を通して具体的な幼児の姿を基に理解し、実態に沿った教師の援助や環境の構成について考える。
(1) - 2)、(2) - 5)
- 5) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、領域「健康」と関係の深い「健康な心と体」をはじめ、「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」などを取り上げ、幼児の発達を理解するために必要な教師の視点について、具体的な事例を基に考える。
(1) - 3)、(1) - 4)
- 6) 模擬保育においては、教材及び音楽再生機器等の効果的な活用を検討したり、振り返りの際に ICT を活用し視覚化したりなどしながら、学生同士が意見を交換する等、協議する機会を設ける。
(1) - 3)、(2) - 2)、(2) - 3)、(2) - 4)
- 7) 小学校の教科等とのつながりについては、小学校の授業等を参観するなどの機会を通し、領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容と小学校の各教科等とのつながりを理解できるようにする。
(1) - 4)

* 上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

② 保育内容「人間関係」の指導法（2単位）

全体目標：

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付ける。

（1）領域「人間関係」のねらい及び内容

一般目標：

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する

到達目標：

- 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。

（2）領域「人間関係」の指導方法及び保育の構想

一般目標：

幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：

- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
- 2) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。
- 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

〔留意事項〕

- 1) 指導案作成や模擬保育では、必要に応じて ICT の活用を試みる。

- [留意事項] 2) 集団生活を通して、様々な感情や思いをもって人と関わる経験が学びの基盤となり、小学校以降の新たな出会いの中での育ちにつながることを理解できるようにする。
- 3) 領域「人間関係」の背景となる学問的基盤及び幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる<授業モデル>

- 1) 入園期の事例を基に、幼児の不安な気持ちや戸惑いを受け止めながら、自ら意欲的にやろうとする自立心の育ちを支える指導の在り方や、友達と積極的に関わり集団の中で遊びを楽しむための援助の在り方を考える。
(1) - 2)
- 2) 幼児のいざこざに関する事例を基に幼児の気持ちについて話し合い、自己と他者の気持ちに気付き、それぞれが受け止められ、自他の気持ちに向き合えるように幼児を支える指導の在り方を考える。
(1) - 2)
- 3) 幼稚園における遊びや生活の中で、幼児が様々な感情を体験したり、受け止められたりし、自分の感情を知り、他者との違いに気付き、他者との間で自分の気持ちを調整する力を身に付けていく過程について、事例を通して理解し、教師がどのような言葉を掛けたら良いか具体的に考える。
(1) - 2)
- 4) 学級の中で人間関係における個と集団の育ちについて、幼児の心情や発達の理解と援助の方法を具体的な場面に基づいて考える。
(1) - 2)
- 5) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、領域「人間関係」と関係の深い「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」を取り上げ、幼児の発達を理解するために必要な教師の視点について、具体的な事例を基に考える。
(1) - 3)、(1) - 4)
- 6) 園の決まりやルールに関する事例を基に、教師の温かい援助に支えられ、幼児自身が葛藤の中で折り合いをつけようとすることや、幼稚園生活を通して集団での決まりやルールの必要性を感じたり、自らルールを作り出したり考え合ったりしていくことの重要性について話し合う。
(1) - 2)、(1) - 4)
- 7) 幼児同士が目的を共有し、考え合ったり工夫し合ったりすることが必要になる内容を含めた、協同性を育む活動や遊びの展開について、指導案を立案する。
(2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 3)、(2) - 4)、(2) - 5)
- 8) 幼児と小学生が相互主体的に関わり合う互惠的な幼小の交流活動の展開について、指導案を立案する。
(2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 3)、(2) - 4)、(2) - 5)
- 9) 地域の多様な人との具体的な関わりを通して、多様性に対する受容的な感性や幼児が自ら関わろうとする力を育む長期的な指導計画を考える。
(2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 3)、(2) - 4)、(2) - 5)

- 10) 幼児を取り巻く人間関係の現代の特徴を踏まえ、保護者や地域の人々と共に幼児の人間関係を育む教師の役割を考える。

(2) - 5)

*上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

③ 保育内容「環境」の指導法（2単位）

全体目標：

領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（1）領域「環境」のねらい及び内容

一般目標：

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。

到達目標：

- 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等とのつながりを理解している。

（2）領域「環境」の指導方法及び保育の構想

一般目標：

幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：

- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
- 2) 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
- 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

〔留意事項〕

- 1) 指導案作成や模擬保育では、効果的な形式や提示の方法の工夫として、ICTの活用を試みる。

- [留意事項] 2) 領域「環境」に関して幼児が経験し身に付ける内容と、小学校以降の生活や学習との関連を取り上げ、小学校との円滑な接続の必要性とその具体的な実践について理解できるようにする。
- 3) 領域「環境」の背景となる学問的基盤及び幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる<授業モデル>

- 1) 幼児の身近な環境との関わりや教師の指導の実際に関しては、映像資料等を活用し、幼児の発達の特長や指導場面等を具体的に理解することができるようにする。
(1) - 1)、(1) - 2)、(1) - 3)
- 2) 製作、栽培、伝統的な遊び等、具体的な遊びや活動を直接体験しながら学ぶ機会を設ける。
(1) - 2)、(2) - 3)、(2) - 4)
- 3) 幼稚園、こども園、小学校などを実際に訪問し、領域「環境」の具体的な活動や行事の実際を理解できるようにする。
(1) - 2)、(1) - 4)
- 4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、領域「環境」と関係の深い「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」を取り上げ、幼児の発達を理解するために必要な教師の視点について、具体的な事例を基に考える。
(1) - 3)
- 5) 領域「環境」との関連を踏まえ、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの具体例を取り上げる。
(1) - 4)
- 6) 領域「環境」に関わる視聴覚教材などの ICT や実践の具体例を示す資料を活用し、具体的な活動の在り方を理解できるようにする。
(2) - 2)
- 7) 最新の学問的知見や実践例をおさえると同時に、幼児教育や発達心理学等の専門性に基き指導する。
(2) - 5)

*上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。